

# 同志社大学

## 2015年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2016年 3月 9日提出

所 属	職 名	氏 名
政策学部	教授	川上 敏和
研 究 題 目	ランダムマッチングモデルを使用した規範・慣習の分析	
研 究 成 果 の 概 要	<p>福島大学の阿部高樹教授との共同研究として、“Community Enforcement with the Cost of Information Transmission”という論文の改訂作業中である。本研究では、繰り返しランダムマッチングのフレームワークに、情報伝達コストがかかるという仮定を行い以下のような結論を導いている。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 集団全体の協力が達成されるためには、集団が逸脱者に対して行う罰則は、制限的なものでなければならない。</li><li>2. 集団全体の協力が達成されるのに、最適な社会の規模が存在する可能性がある。</li></ol> <p>今後は、それを参考にしながら、改訂作業を進めていきたい。また、他の学会や研究会等で発表を行いながら、学術雑誌に投稿できるよう準備を進める予定である。</p> <p>上記に加えて、“Efficiency without Full Rank Conditions”という論文を執筆中である。本研究では、繰り返しランダムマッチングのフレームワークに、公的不完全観測の要素を導入し、次のような結論を導いている。従来の研究では、効率性が達成されないようなシグナル構造の下でも、効率性が達成される。本研究はまだ執筆途上であり、完成度を高めた上で、学会や研究会等で発表して行く予定である。</p> <p>本研究の内容を踏まえて、今年度は以下の論文を執筆した。</p> <p>川上敏和 (2016) 「繰り返しゲーム応用の可能性 -不完全公的観測について-」『経済学論叢(同志社大学)』第67巻第3号, 113-127頁.</p>	